

施策評価シート

幹事部局

健康福祉部

施策の名称	Ⅱ-1-(1) 結婚への支援
施策の目的	結婚や家庭についての若い世代の理解と関心を高めるとともに、多様な出会いの場を増やすことで結婚を望む男女の希望をかなえます。
施策の現状 に対する評価	<p>①(市町村における結婚支援への取組の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの取組により市町村における出会いの場の創出等が進んだ一方、単独市町村の取組では対象地域が限定される等により、特に女性の参加者が少ないといった課題があり、イベントの広域化や取組内容の充実が必要となっている。 <p>②(相談・マッチング機能の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全県の婚姻数は年々減少している中であっても、しまね縁結びサポートセンターが関与した婚姻数は、令和4年度は69組と、一定数を維持している。 「はぴこ」による引き合わせ件数は、コロナ禍の影響により減少傾向だったが、令和4年度は1,435件に増加した。「しまこ」の会員数は、令和4年度から自宅閲覧を可能としたほか、令和3年度からの登録料減額キャンペーンもあり、特に女性会員が増加した。 一方で、「はぴこ」や「しまこ」は、結婚を希望する独身者の選択肢として十分に認知されているとは言えず、特に女性会員の更なる増加に向けて広報が課題となっている。 <p>③(啓発活動・情報発信の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生から大学生を対象として、結婚・妊娠・出産・子育てに関する知識を得たり、命の大切さや親子の絆、自らの将来について考えるための講座を開催し、「親への感謝」、「正しい性知識や、自らの将来生活を考えることの大切さ」などの意見が多数寄せられる等、事業の趣旨が浸透している。 将来生活への不安から結婚に前向きになれない社会人に向けた啓発活動ができていない。縁結びサポート企業に登録している事業所においても、結婚に対する意識の多様化等もあり、従業員に婚活情報等を伝えにくいとの声がある。 <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域イベントに対する補助メニューの追加など、市町村結婚支援強化交付金を見直した。 出会いの場の創出や結婚の機運醸成を、市町村や企業等と連携し、一体的に取り組む結婚支援コンシェルジュ事業を開始した。
今後の取組 の方向性	<p>①(市町村における結婚支援への取組の強化)</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加しやすいイベントとなるよう、広域化を推進するとともに、結婚コンシェルジュ事業を通じて市町村を訪問し、課題聴取や助言を行うなど、よりきめ細やかなフォローアップを実施し、取組を支援する。 市町村訪問や担当者会議などを通じ、市町村と縁結びサポートセンターの連携や、他市町村の優良事例の横展開を進める。 <p>②(相談・マッチング機能の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「はぴこ」については、出会いイベントへの参画や、県や縁結びサポートセンターの広報媒体を通じて活動を紹介する等により、認知度を高めていく。 「しまこ」については、若い世代に直接届く広報を検討の上、自宅閲覧機能により利便性が向上した点を積極的にPRするとともに、登録料減額キャンペーンを継続し、新規会員、特に女性会員の更なる増加を図り、幅広いマッチング体制をめざす。 <p>③(啓発活動・情報発信の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> 結婚コンシェルジュ事業を通じて、縁結びサポート企業の従業員に向けて「ライフプランセミナー」を開催し、将来の結婚生活を自ら考える契機としてもらう。

事務事業の一覧

施策の名称	Ⅱ-1-(1) 結婚への支援
-------	----------------

	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	結婚支援事業	結婚を希望する独身者	結婚を希望する独身者の出会いの機会を増やすなど、結婚の可能性を高める	110,096	162,489	子ども・子育て支援課
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

事務事業評価シート

1 事務事業の概要

担当課

子ども・子育て支援課

事務事業の名称		結婚支援事業			
目的	誰(何)を対象として	結婚を希望する独身者	事業費 (千円)	令和4年度の実績額	令和5年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	結婚を希望する独身者の出会いの機会を増やすなど、結婚の可能性を高める		110,096	162,489
			うち一般財源 (千円)	92,287	111,118
令和5年度の取組内容		・結婚支援コンシェルジュ(民間委託)により、市町村や縁結びサポート企業へのきめ細やかなフォローアップを行うほか、社会人を対象とした結婚機運の醸成、広域的な出会いの場の創出等を一体的に実施 ・しまね縁結びサポートセンターを通じ、縁結びボランティア「はびこ」の活動支援、コンピューターマッチング「しまこ」の運用及び利用促進に向けた登録料減額措置の継続 ・県が実施する又は市町村の実施を支援する広域的な出会いの場の参加者を、「はびこ」「しまこ」へ接続 ・定住施策と連携した県外在住者向け出会い創出イベントの実施			
令和4年度に行った評価を踏まえて見直したこと		・市町村から意見として出された、イベント集客への苦慮、しまね縁結びサポート企業との連携不足、担当職員のノウハウ不足等の課題に対応した、結婚支援コンシェルジュ事業の創設			
1	上位の施策	Ⅱ-1-(1) 結婚への支援	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅳ-3-(2) 安心して家庭や仕事に取り組むことができる環境づくり	4	上位の施策	

2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	しまね縁結びサポートセンターを通じた婚姻数(R2からの累計)【当該年度4月~3月】	目標値		75.0	150.0	225.0	300.0	375.0	組	累計値
		実績値	(単年度78)	75.0	157.0	226.0				
		達成率	—	100.0	104.7	100.5	—	—		
2	結婚を希望する「はびこ」の利用申込者及び「しまこ」の会員の人数【当該年度3月時点】	目標値		1,800.0	2,000.0	2,050.0	2,100.0	2,150.0	人	累計値
		実績値	1,873.0	1,904.0	1,860.0	1,995.0				
		達成率	—	105.8	93.0	97.4	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・県内婚姻件数の推移 R元年:2,625組 R2年:2,398組 R3年:2,337組 R4年:2,167組 ・「はびこ」によるお引き合わせ件数 R元年度:2,079件 R2年度:1,532件 R3年度:1,316件 R4年度:1,435件 ・「はびこ」による交際件数 R元年度:563件 R2年度:403件 R3年度:374件 R4年度:429件 ・「しまこ」会員数 R元年度末:425人 R2年度末:527人 R3年度末:603人 R4年度末:732人 ・「しまこ」によるお引き合わせ件数 R元年度:195組 R2年度:204組 R3年度:327組 R4年度:402組 ・「しまこ」による交際件数 R元年度:(-) R2年度:96組 R3年度:134組 R4年度:157組								

3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・「はびこ」によるお引き合わせ及び交際件数は、コロナ禍によりR3年度までは減少したが、R4年度は回復に転じている。 ・「はびこ」による成婚人数は、毎年度100人程度で推移し、R5年度には累計1,000人を達成する見込み。 ・「しまこ」会員数は、R3年度からの登録料減額キャンペーンにより増加し、女性会員が占める割合も上昇している。 ・「しまこ」によるお引き合わせ件数及び交際件数は、H30年度からの運用開始以降、会員数の増加に併せて一貫して増加している。 ・利便性の向上した「しまこ」の自宅閲覧機能は、約8割の会員が利用する状況になり、自宅からのお引き合わせ申込み成功割合も、センター等からの割合と比べ約10%高い状況。
課題分析	① 課題	ア)「はびこ」や「しまこ」の認知度が低い(R3結婚意識調査) イ)「はびこ」相談登録者、「しまこ」会員とも、女性の割合が低い ウ)出会いの場の創出(市町村)と、実際のお引き合わせ支援(縁サポ)の取組が繋がっていない エ)出会いイベント等の参加者が少ない(特に女性) オ)結婚に対する意識の多様化や、様々な生き方を選択できる時代となったことを背景に、縁結びサポート企業内で従業員へ婚活情報等を伝えるに困難な状況がある
	② 原因	ア)結婚を希望する独身者へ県(縁サポ)の取組内容が十分に周知できていない イ)個人情報(写真など)の取扱いなどに対する不安や、若い世代の女性の県外転出が多い ウ)県交付金が活用されないなど、県(縁サポ)と市町村事業の連携が十分に図られていない エ)婚活に対する恥ずかしさ、顔見知りへ会う可能性など、イベント参加に対して前向きになれていない オ)サポート企業登録後、従来からの婚活情報の情報発信のみなど、県(縁サポ)からの支援が限定的となっている
	③ 方向性	ア)県(縁サポ)が取り組む結婚支援の内容が十分に届くようにするため、その手法等について検討する。 イ)「しまこ」の登録料減額、自宅閲覧機能など、誰でも利用しやすい行政の結婚支援サービスを、SNS等で積極的にPRし、会員数(特に女性)の増加を図る。併せて、定住施策と連携した移住促進も目的として、首都圏等における出会いイベントを開催する。 ウ)県の市町村結婚支援の強化を図るため市町村担当者会議を開催するとともに、市町村と縁サポの連携、他市町村の優良事例の横展開を行い、市町村における結婚支援の活性化を進める。 エ)結婚に対する機運醸成の取組を充実するとともに、参加しやすい出会いイベントの広域化を進める。 オ)県が主体となって、サポート企業の従業員向けに、将来の結婚生活を自ら考えるライフプランセミナーを開催する。

